

## 平成26年度 第1回佐倉市景観審議会 議事録（要録）

日 時	平成26年5月16日（金）15時30分～17時10分
場 所	佐倉市役所 1号館3階 会議室
出席者	木下会長、片桐副会長、石毛委員、内田委員、小出（淑子）委員、佐藤委員、関口委員、田邊委員、中島委員（五十音順）
内 容	
○開会	
○会長挨拶	
○内容	
（1）平成26年度佐倉市景観計画の策定について 平成26年度の景観計画策定の進め方について、事務局より報告	
（2）佐倉市景観計画について 佐倉市の景観特性と課題	
佐倉市の景観特性と課題、佐倉らしさを感じさせる景観と今後の展望について、事務局より説明	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・類型別（自然・田園景観、歴史・文化的景観、市街地景観、心象景観）の景観特性と課題</li> <li>・佐倉らしさを感じさせる景観と今後の展望について             <ol style="list-style-type: none"> <li>1－下総台地と印旛沼低地の田園風景</li> <li>2－自然との共生と時代の積み重ね</li> <li>3－計画的な市街地開発の中で形成された住宅地のまとまり</li> <li>4－地域、界隈や敷地をふちどる緑</li> <li>5－数多く存在する印象的な眺望景観</li> </ol> </li> </ul>	
委員	：根郷地区は校歌が作られた当初と学校の周りの様子が大きく変わってきている。このような状況で、どのように景観形成につなげていくのか。
事務局	：タウンミーティング等において、地区の方々から状況を伺いながら、地域の特色を捉えるアプローチのひとつとして活かしていきたい。また、校歌にうたわれた風景を手掛かりに、地域の景観を継承していくという流れも考えられる。
委員	：土地利用類型を基本に景観誘導を行っていくということであれば、類型は基準や届出対象行為などのゾーニングにもつながっていく。ユーカリが丘駅前色彩的特徴が突出しており、他の商業系市街地と同じ基準では扱いにくいいため、細分化を検討しても良いと思う。
委員	：住宅地といっても開発地区による違いが大きい。デベロッパーがデザイン監修を行っている住宅地もあり、多様な住宅地をコントロールするのは難しい。また、商業系では、人を集めるという点で、観光の視点も景観に含まれている。行政の予算は限られているため、一般の人々と協力して取り組んでいかなければならない。類型やテーマの表現は、市民の方の心をどのように掴んでいくのかという所も考えながら検討する必要がある。
委員	：これまで、個々の課題に対してボトムアップ的に積み重ねて施策を導いていく流れできたが、市として取り組んでおくべき施策の対応を確認していく中で、不足している要素を補うことができるのではないかと。
委員	：4つの類型が示されているが、重点をおくものがなければ、中途半端になってしまうのではないかと。市街地景観でいえば、市内ではJR線よりも京成線沿線の方が発展しているように感じる。京成線沿線では、京成佐倉駅が寂しいという印象がある。対象

を絞って力を入れて取り組んでいってはどうか。

会長 : 現段階では市全域の特徴を把握するという類型の整理になっている。今後、方針等の検討を進めていく際に、重点的に取り組むエリアなどを検討する必要があるだろう。

委員 : 駅前の商業景観については、4つの地域ごとに異なった特徴があるため、それぞれに適した方法が出てくると思う。また、国道296号(成田街道)は大切にされた方がよい。碑や石仏などの歴史的資源が沿道に残っているが、看板などが無い。こういったことにも目を向けてほしい。

会長 : 道路の景観については、類型や地区ごとに特徴を把握するほか、街路樹やサイン等の項目で景観的な統一性を持たせた方がよいのかについても、今後検討していきたい。

委員 : 景観を考える際には、視点も意識したい。電車からはふるさと広場の風車が目に留まるが、車で運転していると見過ごしがちである。また、意外に市民の方が地域を知らないということもあるので、まち歩きなどを行うと、見過ごしていたものに気が付くということがある。視点場の整備をする場合は、人がどう歩くのか、車で通った時にどう見えるのかという所を大事にしたい。

委員 : 農村集落はどの類型に入るのか。また、農地の後継者が減り、耕作放棄地になったところがヤード等になってしまっている状況が農村部において散見されるが、対策はあるのか。

事務局 : 現在は土地利用類型ごとに区分しているため、農村集落は主に自然・田園景観に含まれている。また、耕作放棄地に関しては、市の施策として新規就農者の支援等に取り組んでいる。

委員 : 「類型別」は土地利用の特徴から景観に係る要素が整理されているもの。さらに、「らしさ」として整理された要素からは、景観形成を誘導する上で気をつけるべきことが抽出されていくと認識している。現状では、特性・課題、方法などが混在しているという印象を受けるので、定性的な表現で整理されているが、もう少し構造化した方がよいのではないか。「計画的な市街地開発の中で形成された住宅地のまとまり」の中に、駅周辺を中心とした中高層住宅立地の進行について記載することも必要ではないか。

委員 : 戦後の大きな市街地変容の中にこそ、今後の景観形成における課題が見えてくるところがあるように感じている。特に、千葉県は高度経済成長期以降、交通インフラの整備などで一気に市街地が変容した経緯がある。このような経緯が書かれていると、今後の景観形成のヒントになるものが導き出せるのではないか。

委員 : 佐倉の大きなルーツは、印旛沼から派生するものと、歴史から派生するものがある。一方で、駅前などはそういったものとは別の景観のように感じる。ルーツに根ざす風景とそうでない風景を分けて考えてもよいのではないか。

会長 : ルーツは特性が非常に分かりやすい。一方で、新しい住宅地にも佐倉らしさがあるように思う。

### (3) 地区別懇談会の実施(案)について

地区別懇談会(タウンミーティング)の実施(案)について事務局より説明

### (4) その他

次回以降の景観審議会の予定について

○開会